

令和6年度 家庭教育支援実践交流会 開催報告

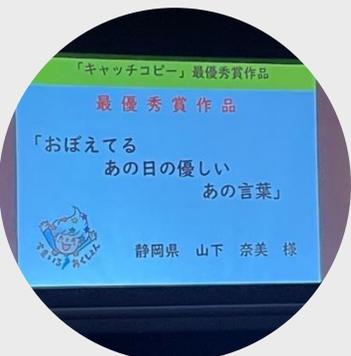
日時 令和7年1月23日(木)

会場 滋賀県立男女共同参画センター大ホール

参加人数 48名

内容

- 実践事例発表:「だれ一人、取り残さない社会をめざして」
～ 地域を舞台に！！ 竜王町教育委員会の挑戦 ～
竜王町教育委員会事務局生涯学習課
生涯学習係 係長 田邊 正俊 氏
竜王町教育委員会事務局学校教育課
スクールソーシャルワーカー 岨中 庸子 氏
竜王町家庭教育支援員 鎌田 とみ子 氏
- 助言:「子どもの未来を創る 家庭・地域・学校のつながり」
滋賀県スクールソーシャルワークスーパーバイザー
家庭教育支援アドバイザー 上村 文子 氏
- グループ別情報交換
「実践事例発表から学んだこと、取り入れたいこと」
「家庭教育支援活動の成果と課題」
「来年度に向けて」等
- 令和6年度家庭教育啓発ポスター披露、
キャッチコピー最優秀賞・優秀賞受賞者紹介



【参加者の感想より】

- やはり、困難な家庭を動かしていくためには、長い期間根強くかかわり続けることで、信頼関係が構築され、困り事をさらに解決しやすくなっていくのだと改めて感じました。
- 行政の思いや見方を整理して、理解することができました。
- 「ソーシャルキャピタルの大切さ」、「つながりを広げていくことの重要性」について学ぶことができました。
- 竜王町の家庭教育支援は、関係機関との繋がりがあり、とても充実した取組だと感じました。
- 市町によって、関係機関との連携の差がありますが、教育と福祉がともに連携し、子どもを見守ることができる社会になってほしいと思います。
- 今までの経験にとらわれすぎず、いろんな業種の方と関わり、新たな関係を築くことの大切さを感じました。
- 学校現場だけでは限界もあり、いかに地域の様々な機関と協力していくかが大事だと改めて感じました。
- 地域には、資源となる人や物(施設)があり、それとうまく紡いでいくことで、支援の幅は広がっていくことに心強さを感じました。本当に困っている保護者さんにとって、支援があることは何よりも安心に繋がることだと思います。
- いかに現場の先生方に家庭教育支援が、遠い存在のものなのか実感できました。
- グループ別情報交換では、普段出会うことがない方々とお話しできたことはありがたく、勉強になりました。
- 家庭教育支援員は、先生ではなく、「ただのおじさん・おばさんでしゃべりやすい人」という言葉になるほどと思いました。
- 上村先生には既存にとらわれずに、物事を違う視点で見えていくことの大切さを教えていただきました。
- 大人が生き生きとした姿を、見せていくことの大切さを確認しました。
- 同じ家庭教育支援員の情報交換は刺激あり、学びありだけでなく、共感できることも大変うれしいことです。

